

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年12月15日 (2016.12.15)

【公表番号】特表2016-505079(P2016-505079A)

【公表日】平成28年2月18日 (2016.2.18)

【年通号数】公開・登録公報2016-011

【出願番号】特願2015-541809(P2015-541809)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

C 0 9 J 183/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 8 K 5/3492 (2006.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/04

C 0 9 J 183/04

C 0 9 J 11/06

C 0 8 K 5/3492

C 0 9 D 183/04

C 0 9 D 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月24日 (2016.10.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

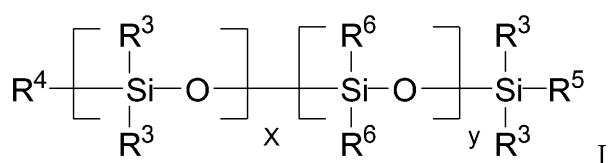
a) 95 ~ 99 . 9 重量部のシリコーンポリマーと、

b) 0 . 1 ~ 5 重量部のハロメチル - 1 , 3 , 5 - トリアジンと、を含み、これらの合

計が 100 重量部であり、

前記シリコーンポリマーが、式 I 又は式 I I のものから選択される、放射線硬化性組成物。

【化 1】



[式中、 R^3 は、それぞれ独立して、アルキル基、アリール基又はアルコキシ基であり、

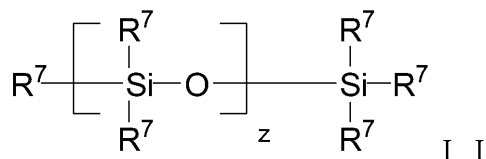
R^4 は、H、アルキル基、アリール基、アルコキシ基、又は、エポキシ、アミン、ヒドロキシ基を含む官能性基、又は、 $-Si(R^3)_2R^5$ であり、

R^5 は、H、アルキル、アリール、アルコキシ基、又は、エポキシ、アミン、ヒドロキシ基を含む官能性基、又は、 $-Si(R^3)_2R^5$ であり、

R^6 は、H、アルキル、アリール、アルコキシ基、又は、エポキシ、アミン、ヒドロキ

シ基を含む官能性基、又は $-\text{Si}(\text{R}^3)_2\text{R}^5$ であり、
 y は、 $0 \sim 20$ であり、
 x は、少なくとも 10 である。]

【化 2】

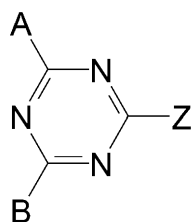


[式中、各 R^7 は、独立して、アルキル、アルコキシ、アリール又は官能性基であるが、
 ただし、少なくとも 1 つの R^7 基は、ヒドリド基、アミン基、ヒドロキシ基及びエポキシ
 基からなる群から選択される官能性基であり、残りの R^7 は官能性基ではなく、 z は、少
 なくとも 10 である。]

【請求項 2】

前記ハロメチル - $1, 3, 5$ - トリアジンが、以下の式を有する、請求項 1 に記載の放
 射線硬化性組成物。

【化 3】



[式中、 A は、モノ、ジ、又はトリハロメチルであり、
 B は、 A 、 $-\text{N}(\text{R}^1)_2$ 、 $-\text{OR}^1$ 、 R^1 、 $\text{L}-\text{R}^{\text{増感剤}}$ 又は $-\text{L}-\text{R}^{\text{PI}}$ (式中、
 R^1 は、 H 、アルキル又はアリールである) であり、
 Z は、共役発色団、 $\text{L}-\text{R}^{\text{増感剤}}$ 、又は $-\text{L}-\text{R}^{\text{PI}}$ であり、
 L は、共有結合又は (ヘテロ) ヒドロカルビル連結基であり、
 $\text{R}^{\text{増感剤}}$ は、化学線を吸収することができる増感剤部分であり、
 R^{PI} は、化学線に曝露した際にフリーラジカル又はイオン性連鎖重合を開始すること
 ができる光開始剤部分である。]

【請求項 3】

A 及び B が、トリクロロメチルである、請求項 2 に記載の放射線硬化性組成物。

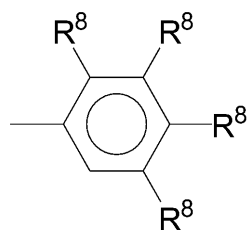
【請求項 4】

Z が、アリール基である、請求項 2 に記載の放射線硬化性組成物。

【請求項 5】

Z が、以下のものである、請求項 4 に記載の放射線硬化性組成物。

【化 4】



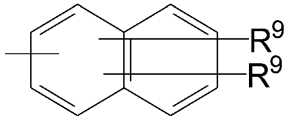
[式中、各 R^8 は、独立して、 H 、アルキル又はアルコキシであり、前記 R^8 基のうちの

1 ～ 3 個は、H である。]

【請求項 6】

Z が、以下のものである、請求項 4 に記載の放射線硬化性組成物。

【化 5】



[式中、各 R⁹ は、独立して、H、アルキル又はアルコキシである。]

【請求項 7】

Z が、L - R^{増感剤} である、請求項 2 に記載の放射線硬化性組成物。

[式中、L は、増感剤部分をトリアジン核に連結する（ヘテロ）ヒドロカルビル基を表すが、ただし、前記トリアジン核の発色団は、共有結合又は共役結合によって直接、前記 R^{増感剤} の増感剤部分の発色団に結合することはない、

R^{増感剤} は、シアニン基、カルボシアニン基、スチリル基、アクリジン基、多環式芳香族炭化水素基、ポリアリーールアミン基又はアミノ置換カルコン基を表す。]

【請求項 8】

Z が、L - R^{P I} である、請求項 2 に記載の放射線硬化性組成物。

[式中、L は、増感剤部分をトリアジン核に連結する（ヘテロ）ヒドロカルビル基を表し、
R^{P I} は、水素引き抜き型光開始剤基を表す。]

【請求項 9】

前記シリコンが、ポリ（ジアルキルシロキサン）である、請求項 1 に記載の放射線硬化性組成物。

【請求項 10】

前記シリコンが、ヒドロキシ末端ポリ（ジアルキルシロキサン）である、請求項 1 に記載の放射線硬化性組成物。

【請求項 11】

前記シリコンが、アミン末端ポリ（ジアルキルシロキサン）である、請求項 1 に記載の放射線硬化性組成物。

【請求項 12】

基材上の、請求項 1 に記載の放射線硬化性組成物を含む硬化コーティング。

【請求項 13】

200 g / インチ未満の剥離試験値を有する、請求項 12 に記載の硬化コーティング。